

英語系学科卒業生のキャリア形成に関する研究(2)

－卒業生の仕事の経緯－

A Study on Career Development of Junior College English-Major Graduates(2)

－ Tendency of Changing Jobs among Junior College Graduates －

(2002年3月29日受理)

垣見 益子 橋内 幸子

Kakehi Masuko Hashiuchi Sachiko

Key words : キャリア, 転職, 就業意欲

Abstract

This is the second report on the research conducted on career development of the graduates of the English Department of Chugoku Junior College. It overviews processes of their career development focusing on frequency and reasons for changing jobs, variation of working styles, types of jobs, etc.

I. はじめに

前稿において筆者兩名は、卒業生対象のアンケート調査結果報告の第1弾として、実施要領、回答者の属性を詳細に述べた上で、短期大学がキャリア形成の面で学生から期待されていることがらについて報告した。

本稿では、その第2弾として、退職・転職など卒業生の仕事の経緯の実情を、アンケート結果から考察する。そして最後に、現在勤務中の回答者が、今の仕事に対してどのような気持を持っているのかを検証する。

本研究の目的と概要は前稿に記載した通りであるので、本稿では省略する。ただし、前回集計後に回収できた4通をデータに加えているため、回答者総数は293人となっている。回答者の期間区分は表1のようになっている。

表1 期間区分とその概要

	期間Ⅰ	期間Ⅱ	期間Ⅲ
卒業年度	1968～1979年	1980～1995年	1996～1999年
主な年齢層	41～52歳	25～40歳	21～24歳
資格の種類	○中学校教諭 免許状(英語)	○中学校教諭 免許状(英語) ○秘書士	○中学校教諭 免許状(英語) ○秘書士 ○上級秘書士
卒業生総数	460人	1379人	358人
調査票送付数	225通	719通	204通
回答者数	48人	182人	60人
調査票回収率	21.3%	25.3%	29.4%

注1) 回答者293人のうち3人は期間不明。

II. 転職の実態

1. 全体の状況

1) 現在の状況

回答者293人のうち、就職や転職のデータを全く記載していない2人を除く291人の現在の状況は図1-1-1の通りであった。

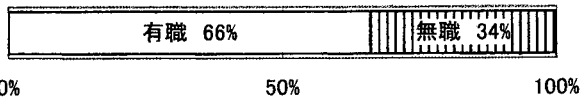


図 1-1-1 現在の状況 (n=291)

回答者291人のうち2人は未だ仕事を体験していない。就職経験者289名中、調査時点で仕事をしている人は予想を上回る66%の192人であった。

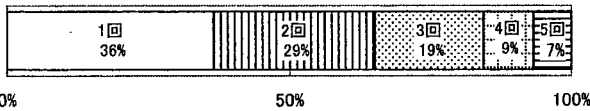


図 1-1-2 就職の回数 (現在有職) (n=192)

5回までの就職、退職について回答してもらったところ、現在仕事をしている回答者192人の就職回数は図1-1-2のようであった。1回、2回、3回以上が、それぞれ全体の約3分の1となっている。5回以上の就職をしている人は14人で、その内少なくとも3人は6回以上の就職をしている。

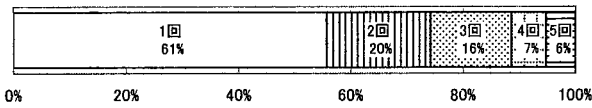


図 1-1-3 就職回数 (現在無職) (n=97)

現在仕事をしていない回答者97人の就職回数は図1-1-3のようであった。約6割が最初の就職先を退職した後再就職をしていない。5人は5回就職した後仕事を辞めている。

仕事をしていない理由は図1-1-4の通りであった。「働きたくない」は皆無で、25才から40才のII期の過半数が「家事・育児」を理由としている。「その他」には、「体調不良」「転居」などの理由が含まれるが、詳細には「退職の理由」の項で考察することにする。

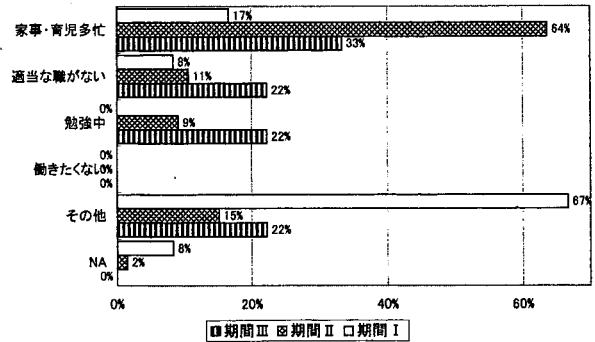


図 1-1-4 現在無職の理由 (期間別) (n=87: I期12, II期66, III期9)

289人が卒業以来どのように就職や転職を経験してきたかを概観してみると図1-1-5のようになった。

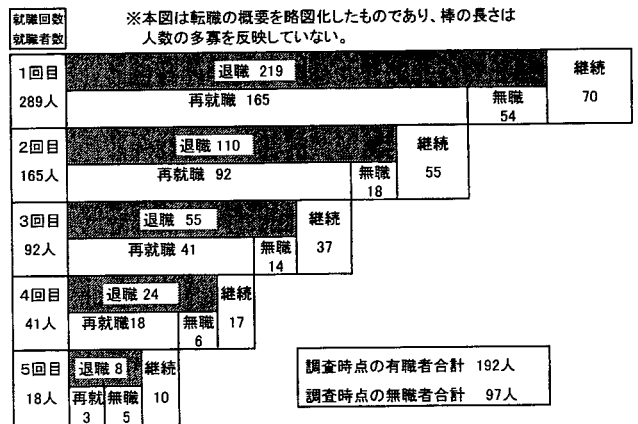


図 1-1-5 転職の概要 (全体) (n=289)

2) 転職の難易度

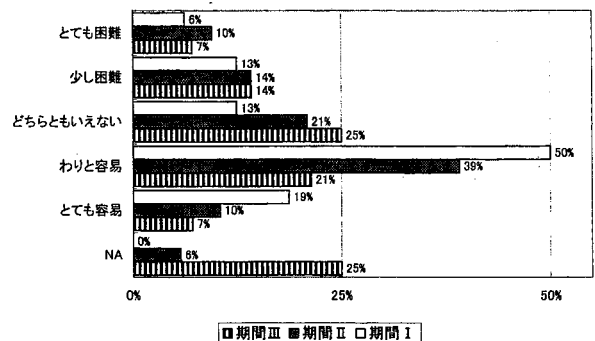


図 1-2 転職の難易度 (期間別) (n=165: I期32, II期105, III期28)

転職経験者165人を対象に、転職が容易であったか否かについて尋ねたところ、約半数が「とても容易」「わりと容易」と回答している。期間別では、I期の7割が「容易」と答えており、II期とIII期の約4割を上回っている。(図1-2)

3) 転職の理由

転職の理由を複式回答で尋ねたところ、「職場の人間関係」が最多で全体の25%を占めた。しかしI期、II期、III期の順に比率は低下している。「勉学」や「総合職との格差」は殆どIII期のみであった。時代的な背景がしのばれる。(図1-3)

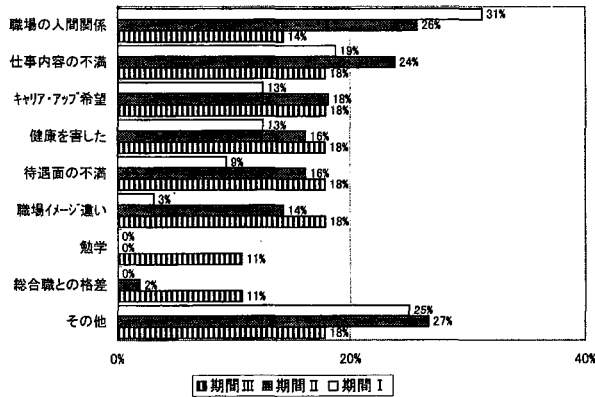


図1-3 転職の理由 (複数回答・期間別)
(n=165: I期32, II期105, III期28)

4) 転職の相談相手

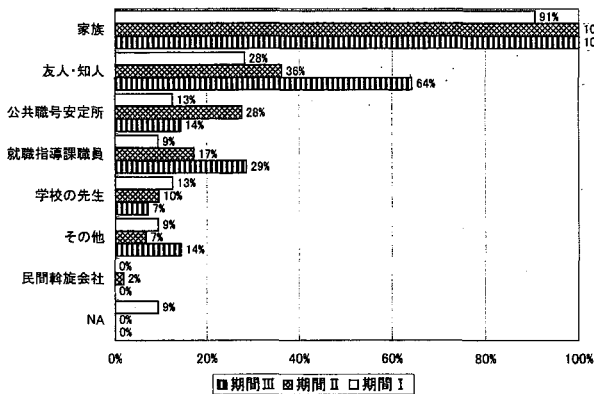


図1-4 転職の相談相手 (複数回答・期間別)
(n=165: I期32, II期105, III期28)

転職に当たっては、期間を問わずほとんど全員が両親を含む「家族」に相談をしている。卒業後の経過年数が少ないIII期の3割が「就職指導課職員」に相談している

ことは興味深い。卒業後のアフターケアも、短期大学のサービスとして期待されていることが分かる。(図1-4)

5) 最終就職の年齢

現在または最後の仕事に就いた年齢をまとめると、図1-5のようになる。III期回答者は殆ど20才から24才までの年齢層なので、ほぼ全員が20~24才となっているのは当然であるが、I期の27%、II期の約6割が、24才以降新たな職に就いていないのは予想外であった。調査時点の年齢層が41~52才のI期回答者は、20才から44才まで最終就職年齢が広く分散している。

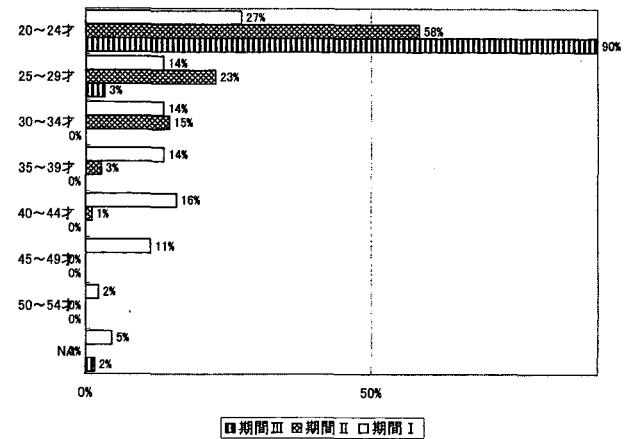


図1-5 最後に就職した年齢 (期間別)
(n=286: I期45, II期184, III期57)

6) 最終就職の形態

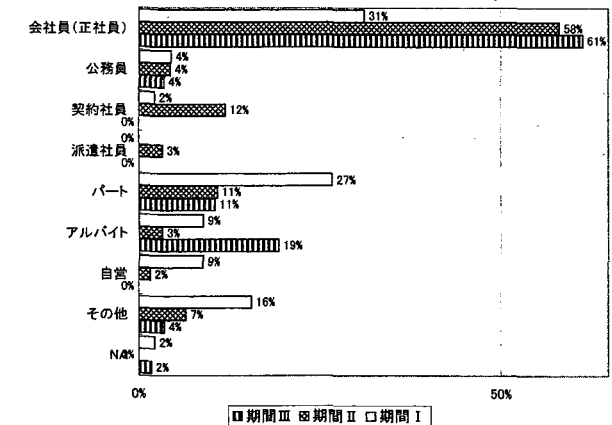


図1-6 最後に就職した形態 (期間別)
(n=286: I期45, II期184, III期57)

現在または最終の就業形態は、図1-6の通りである。II期とIII期の回答者の約6割が「正社員」であるの対

表2 仕事経歴のパターン（形態）（2人以上のケースのみ）

順位	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	人数	現在の状況	
							有職	無職
1	会社員					103	54	49
2	会社員	会社員				21	15	6
3	会社員	パート				9	7	2
4	会社員	アルバイト				8	6	2
5	会社員	会社員	会社員			7	5	2
6	公務員					6	5	1
7	アルバイト					5	5	0
8	会社員	契約社員				5	2	3
9	会社員	自営業				5	5	0
10	会社員	会社員	パート			5	4	1
11	契約社員					4	2	2
12	アルバイト	会社員	会社員			4	3	1
13	会社員	会社員	会社員	会社員		4	4	0
14	公務員	会社員				3	3	0
15	会社員	パート	パート			3	2	1
16	会社員	アルバイト	契約社員			3	3	0
17	会社員	パート	パート	パート	パート	3	2	1
18	公務員	公務員				2	2	0
19	公務員	契約社員				2	0	2
20	派遣社員	パート				2	2	0
21	会社員	アルバイト	アルバイト			2	1	1
22	会社員	アルバイト	会社員	会社員		2	2	0

表3 仕事経歴のパターン（職種）（2人以上のケースのみ）

順位	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	人数	現在状況	
							有職	無職
1	一般事務					73	43	30
2	サービス					22	12	10
3	一般事務	一般事務				17	11	6
4	一般事務	一般事務	一般事務			10	7	3
5	販売営業					9	4	5
6	医療事務					7	6	1
7	教育					6	5	1
8	一般事務	製造技能				6	5	1
9	一般事務	一般事務	一般事務	一般事務		6	5	1
10	秘書					4	1	3
11	一般事務	一般事務	サービス			4	1	3
12	販売営業	販売営業				4	4	0
13	SE他					4	3	1
14	サービス	サービス				4	4	0
15	製造技能					3	1	2
16	一般事務	一般事務	販売営業			3	2	1
17	一般事務	一般事務	製造技能			3	0	3
18	一般事務	教育				3	2	1
19	一般事務	製造技能	製造技能			3	3	0
20	販売営業	一般事務				3	2	1
21	販売営業	サービス				3	3	0
22	医療事務	一般事務				3	2	1
23	一般事務	医療事務				2	0	2
24	一般事務	一般事務	一般事務	一般事務	一般事務	2	0	2
25	サービス	サービス	サービス			2	2	0
26	教育	その他				2	1	1
27	サービス	医療事務				2	2	0
28	一般事務	サービス	一般事務			2	1	1

し、I期回答者は「パート」と同じく約3割である。また、III期の2割が「アルバイト」、即ちいわゆる「フリーター」となっている。

7) 最終就職の職種

現在または最終の職種は、どの時期も共通して「一般事務」が約半分を占めている。III期の「サービス」と「秘書」は、他の時期より群を抜いて率が高い。(図1-7)

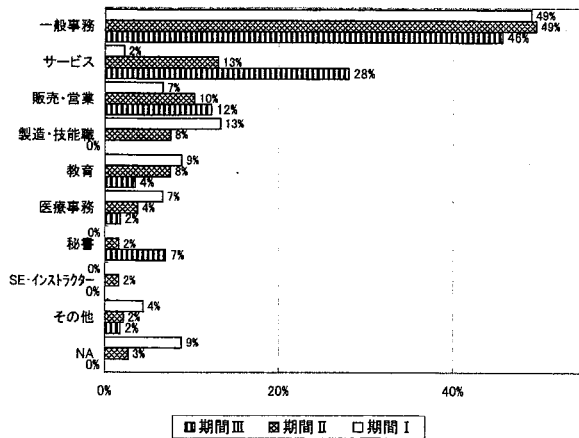


図1-7 最後に就職した職種(期間別)
(n=286: I期45, II期184, III期57)

8) 仕事経歴のパターン

卒業生の仕事経歴を、就業形態の面から見ると表2の通りであった(2人以上のケースのみ記載)。「正社員」から「正社員」への転職者が最も多く32人で、「正社員」から「パート」、「正社員」から「アルバイト」への転職がそれぞれ20人、15人となっている。

また、職種の面からみた仕事の経歴は表3の通りである。1回目のみならず2回目以降も「一般事務」に就くケースが多いことが窺える。

2. 就職回数別の状況

次に、就職回数毎の詳細を見ながら、その特徴を検証していく。

2-1. 1回目の就職状況

1) 1回目の就職年齢

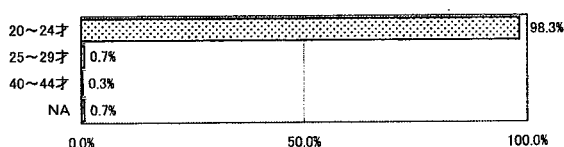


図2-1-1 1回目の就職年齢 (n=289)

1回目の就業年齢は図2-1-1の通りである。93%と殆どが卒業直後に20才か21才(社会人学生1人は41才)で初就職しているため、期間別の分析は行わない。

2) 1回目の就職形態

1回目の就職形態は会社の正社員が約78%と最も多く、契約社員・派遣社員・パート・アルバイトは、合わせても12%のみであった。

3期間とも概ね同様の傾向を示している。(図2-1-2)

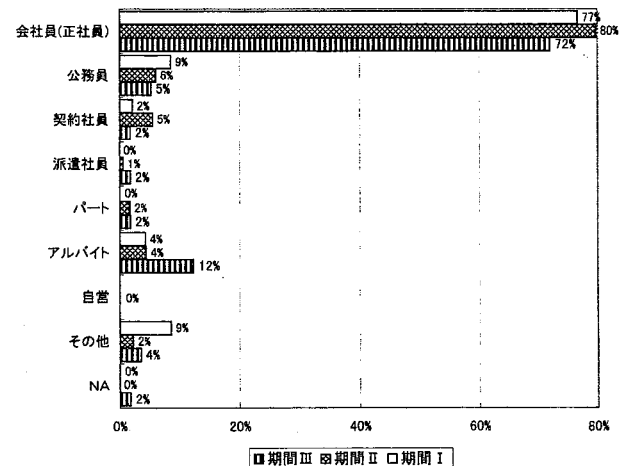


図2-1-2 1回目の就業形態(期間別)
(n=288: I期47, II期184, III期57)

3) 1回目の職種

職種については、「一般事務」(経理事務、営業事務を含む)が73%を占めるI期に対し、II期やIII期では「販売・営業」や「サービス」にも少し分散していることが分かる。「SE・インストラクター」には「キーパンチャー」が、「教育」には「塾講師」や「家庭教師」が含まれている。(図2-1-3)

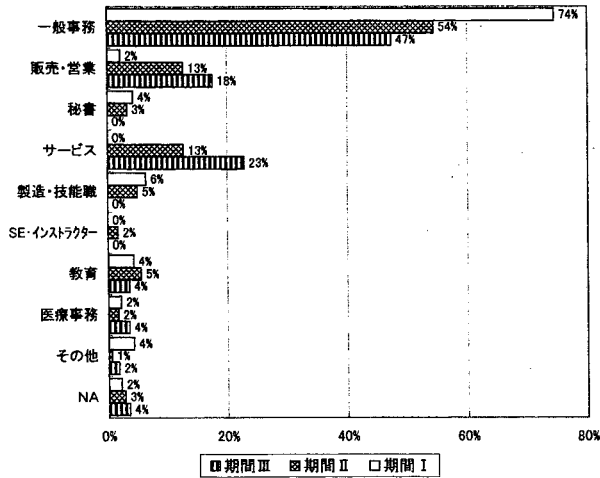


図 2-1-3 1回目の職種 (期間別)
(n=288: I期47, II期184, III期57)

4) 1回目の退職年齢

1回目の就職先を退社した219人の年齢は図2-1-4の通りである。全体の7割が20代前半に退職しているが、特にⅠ期は87%と高い比率となっている。一方、Ⅱ期とⅢ期の約4分の1は20代後半に退職している。70%が20代前半に、約23%が20代後半に退職している。30代の退職者は6人である。

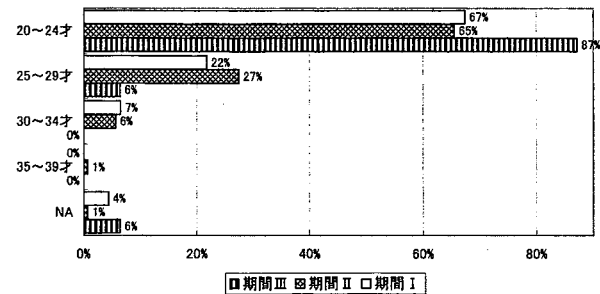


図 2-1-4 1回目の退職年齢 (期間別)
(n=219: I期46, II期142, III期31)

5) 1回目の勤務年数

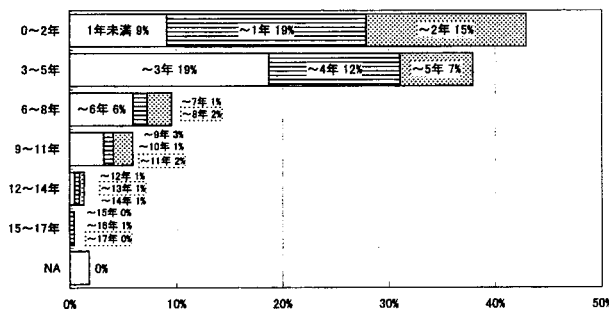


図 2-1-5 A 1回目の勤務年数 (n=219)

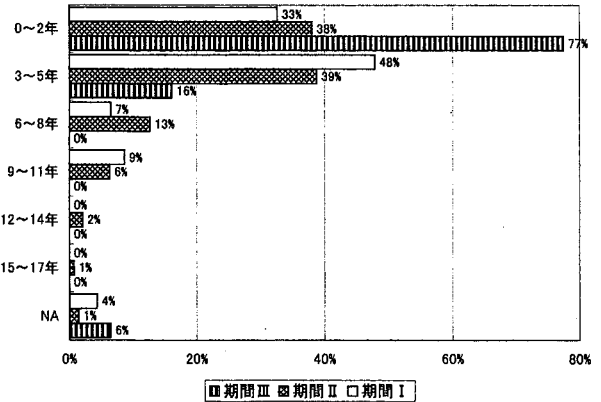


図 2-1-5 B 1回目の勤務年数 (期間別)
(n=219: I期46, II期142, III期31)

退職者219人の勤務年数は、2年以内が43%と最も多く、80%以上の卒業生が5年以内に最初の職場を離れている。(図2-1-5 A)

特に、Ⅲ期は勤務年数が短く、約8割が2年以内に退職している。一般に3年が退職の一区切りとみなされることが多いが、今回の調査でも全体の62%と過半数を超えており、それを裏付ける結果となった。(図2-1-5 B)

6) 1回目の退職理由

Ⅰ期は約半数が「結婚」退職しており、「転職」のための退職は約2割に過ぎないが、Ⅱ期は丁度逆の傾向を示している。結婚後も働く女性が増えていることを反映しているのであろう。「進学」は「専門学校進学」の他、「留学」「ワーキングホリディ」を含む。

その他には、「体調を崩した」9人や「契約切れ・統合に伴う解雇」の5人が含まれている。(図2-1-6)

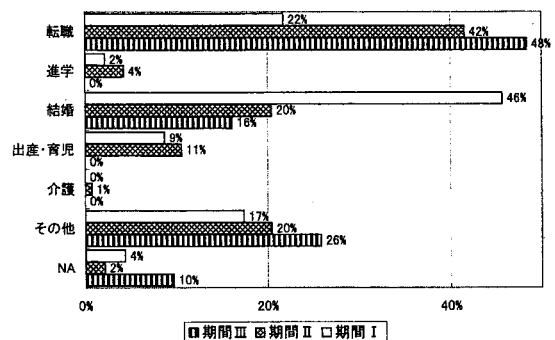


図 2-1-6 1回目の退職の理由 (期間別)
(n=219: I期46, II期142, III期31)

2-2. 2回目の就職状況

1) 2回目の就職年齢

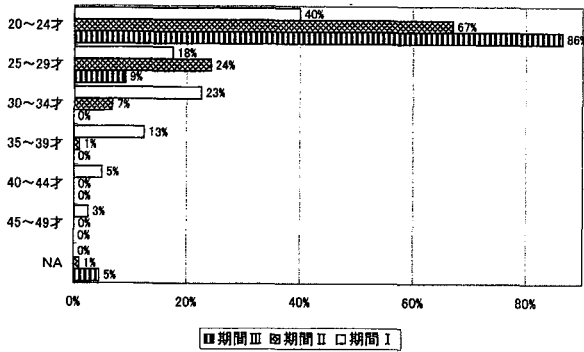


図2-2-1 2回目の就職年齢(期間別)
(n=165: I期40, II期103, III期22)

2回目の就職年齢層は1回目より幅が広がっているが、やはり20代前半が転職者165人の6割以上を占めている。特に若いIII期は86%の高率になっている。逆にI期の再就職は30代後半まで広がっている。(図2-2-1)

2) 2回目の就職形態

「正社員」が5割近くを占めており依然としてトップではあるが、1回目と比べると激減している。逆にI期は「パート」が、III期は「アルバイト」の比率が高まっている。(図2-2-2)

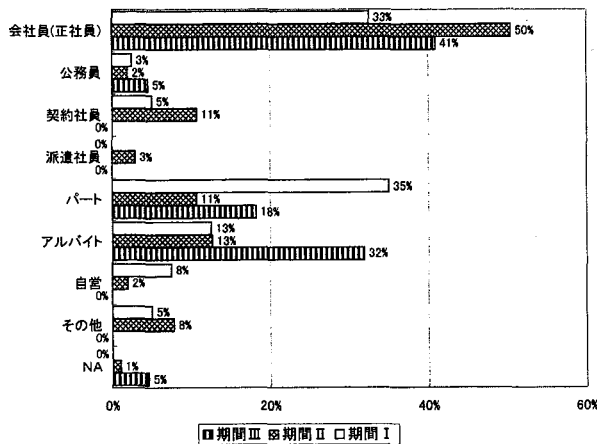


図2-2-2 2回目の就業形態(期間別)
(n=165: I期40, II期103, III期22)

3) 2回目の職種

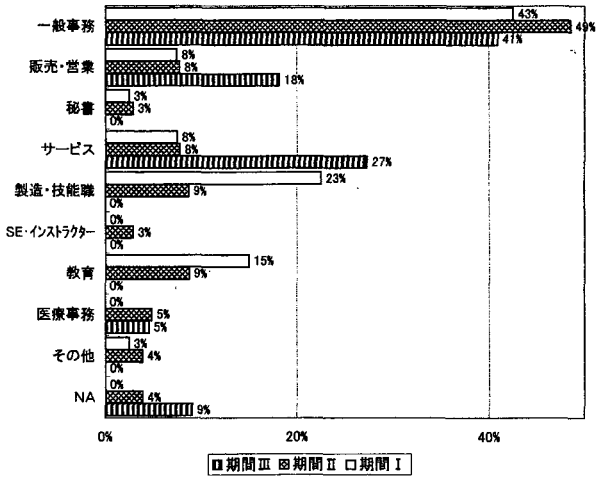


図2-2-3 2回目の職種(期間別)
(n=165: I期40, II期103, III期22)

I期は「一般事務」の比率が減少し、「製造・技能職」や「教育」が増えている。III期は概ね1回目と同様の傾向を示している。「教育」には、英会話教室などの「塾講師」12人、「大学講師、中学校教員」3人が含まれる。(図2-2-3)

4) 2回目の退職年齢

2回目の職場を退職した110人のうち、20代前半は4割に減っている。特にI期の年齢層は、40代前半まで広がっている。II期は20代前半が減り、後半が増えた結果、ほぼ同数となっている。(図2-2-4)

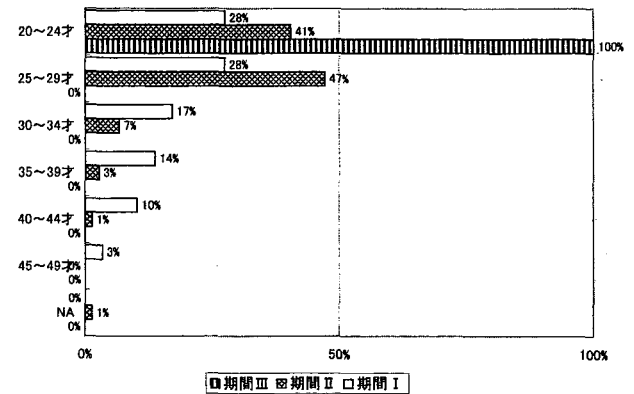


図2-2-4 2回目の退職年齢(期間別)
(n=110: I期29, II期74, III期7)

5) 2回目の勤務年数

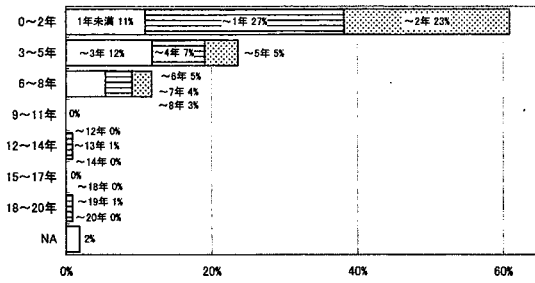


図2-2-5 A 2回目の勤務年数 (n=110)

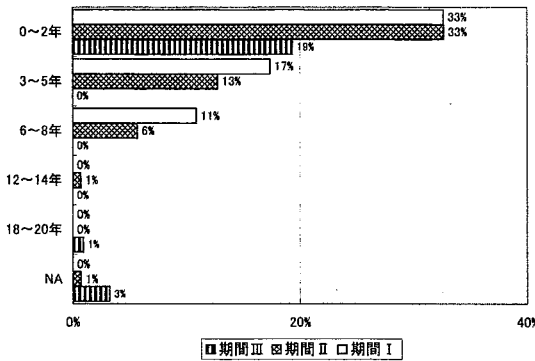


図2-2-5 B 2回目の勤務年数 (期間別)
(n=110: I期29, II期74, III期7)

2回目は、1回目に比べて2年以内が18%増加しており、全体的に勤務期間が短くなっている。3年以内の退職も約72%と増加している。(図2-2-5 A/B)

6) 2回目の退職理由

全体的に「キャリア・アップ転職」が減少している。I期は加齢とともに「結婚」が減り「出産・育児」が増加している。その他には、「期限切れ、解雇」などの9人や「体調を崩した」5人が含まれている。(図2-2-6)

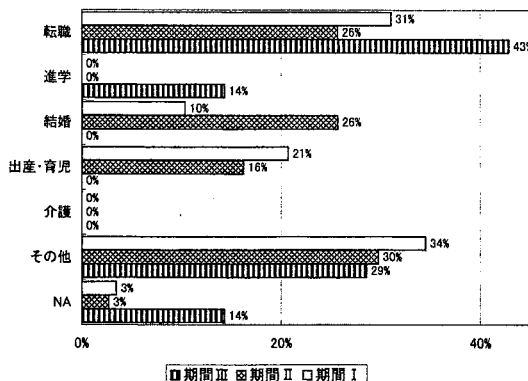


図2-2-6 1回目の勤務年数 (期間別)
(n=110: I期29, II期74, III期7)

2-3. 3回目の就職状況

1) 3回目の就職年齢

3回目の就職をしたのはI期26人, II期59人, III期7人の計92人であった。I期は30代後半が、II期は20代後半がピークになっている。回答者全体の1割が20代前半に2度も転職をしていることは予想を超えていた。(図2-3-1)

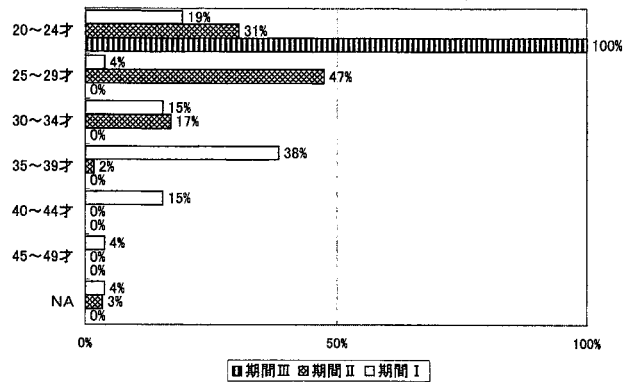


図2-3-1 3回目の就職年齢 (期間別)
(n=92: I期26, II期59, III期7)

2) 3回目の就職形態

「正社員」の比率が更に減り、I期は「パート」、II期は「契約社員」、III期は「アルバイト」が増える傾向が顕著になってきている。(図2-3-2)

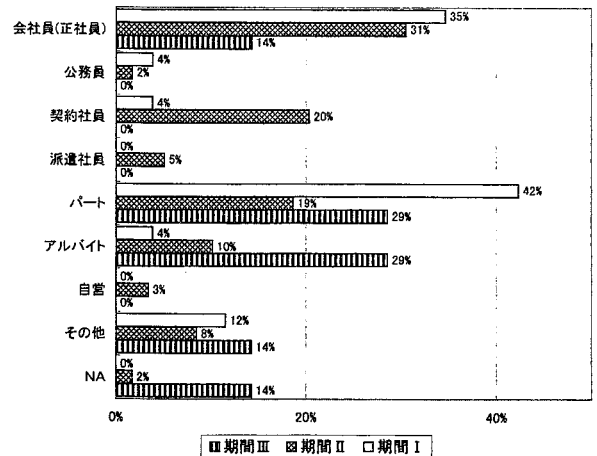


図2-3-2 3回目の就業形態 (期間別)
(n=92: I期26, II期59, III期7)

3) 3回目の職種

職種の面では、2回目と比べて多少の増減はあるものの、大きな変化は認められない。(図2-3-3)

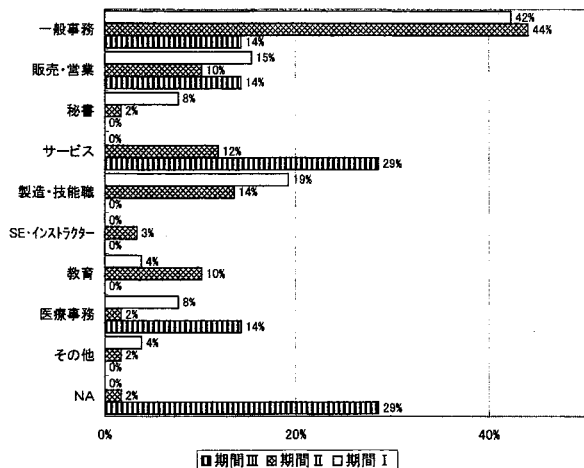


図2-3-3 3回目の職種 (期間別)
(n=92: I期26, II期59, III期7)

4) 3回目の退職年齢

55人が3回目の職場を退職している。(I期13人, II期38人, III期4人) I期は30代後半が、II期は20代後半がピークとなっている。(図2-3-4)

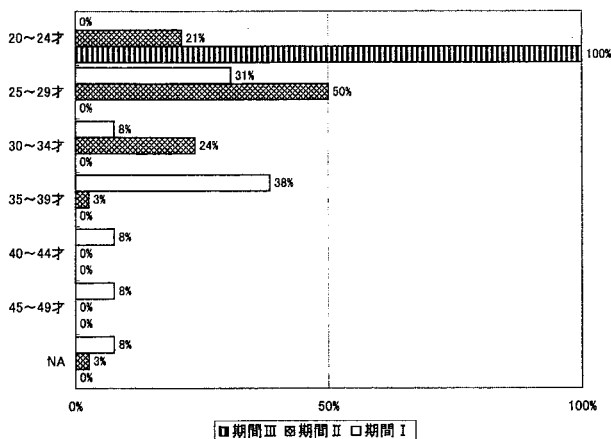


図2-3-4 3回目の退職年齢 (期間別)
(n=55: I期13, II期38, III期4)

5) 3回目の勤務年数

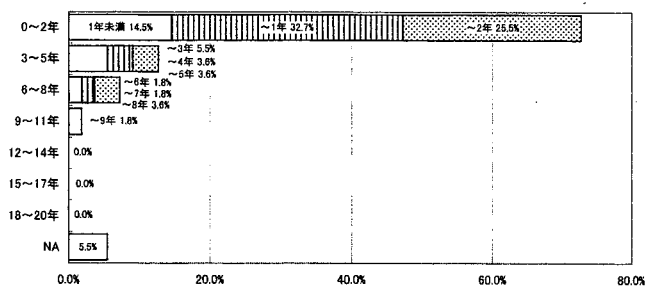


図2-3-5 A 3回目の勤務年数 (n=55)

退職者55人の勤務期間は図2-3-5 A/Bの通りであった。2年以内、3年以内の退職率がそれぞれ約73%、約78%と一層増加している。

これには、「契約社員」など1年契約の就職比率の増大が関連していると思われる。

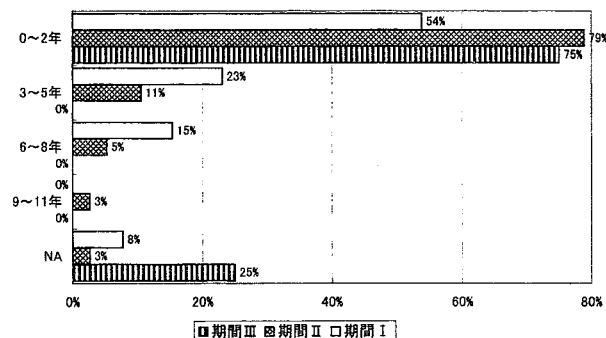


図2-3-5 B 3回目の勤務年数 (期間別)
(n=55: I期13, II期38, III期4)

6) 3回目の退職理由

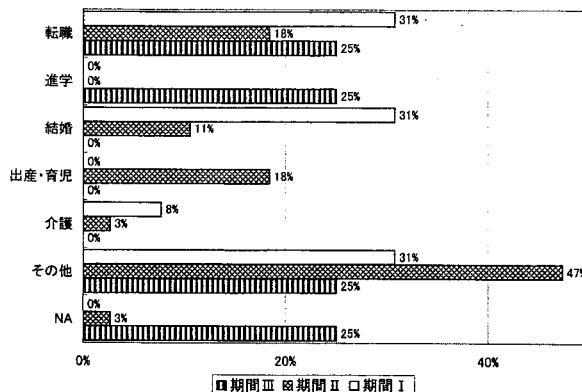


図2-3-6 3回目の退職理由 (期間別)
(n=55: I期13, II期38, III期4)

Ⅲ期の「進学」1人は「語学留学」のためである。また、Ⅰ期、Ⅱ期各1人は「介護」による退職であった。「その他」には「契約切れ、倒産」の7人、「転居、夫の転勤」の3人が含まれている。

また、「パート」から「正社員」になるために退職した人もいれば、逆のケースもある。「手取りの減少」や「体調不良」の人もいた。(図2-3-6)

2-4. 4回目の就職状況

1) 4回目の就職年齢

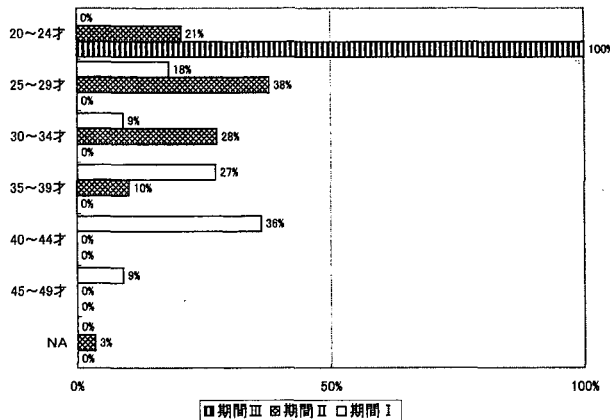


図2-4-1 4回目の就職年齢(期間別)
(n=41: Ⅰ期11, Ⅱ期29, Ⅲ期1)

4回目の就職をした41人の年齢は図2-4-1の通りであった。Ⅲ期の回答者1人は22才であった。Ⅰ期では40代前半が、Ⅱ期では20代後半がピークとなっている。

2) 4回目の就職形態

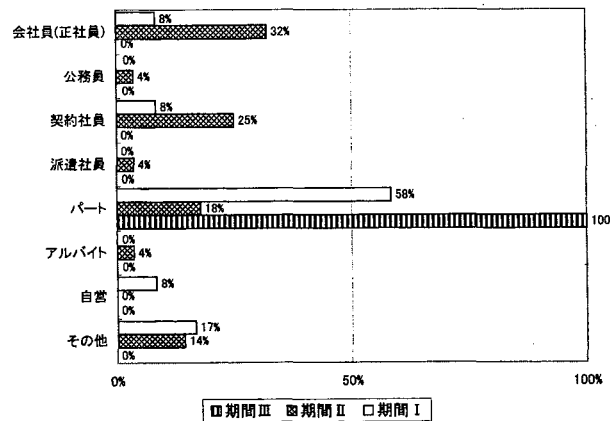


図2-4-2 4回目の就業形態勤務年数(期間別)
(n=41: Ⅰ期11, Ⅱ期29, Ⅲ期1)

3回目と同様に「正社員」が減少し、「パート」が増加している。アルバイトも減少している。

3) 4回目の職種

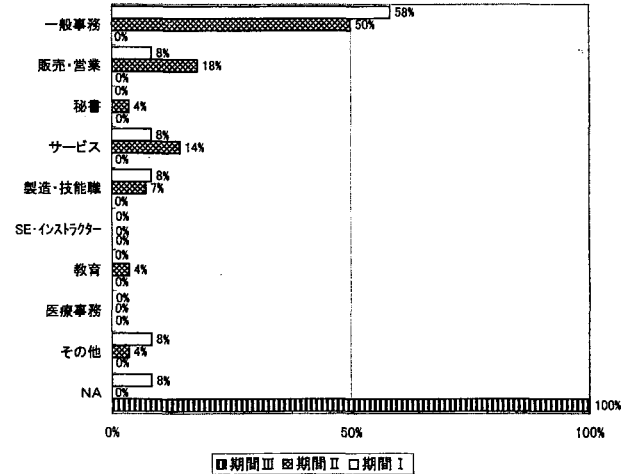


図2-4-3 4回目の職種(期間別)
(n=41: Ⅰ期12, Ⅱ期28, Ⅲ期1)

依然として「一般事務」がⅠ期とⅡ期の半数を占めるが、全体的に大きな変化は認められない。Ⅲ期の1人は不明である。(図2-4-3)

4) 4回目の退職年齢

4回目の職場を退職した人は24人(Ⅰ期8, Ⅱ期15, Ⅲ期1)である。Ⅰ期とⅡ期のピークは、それぞれ20代後半と40代前半である。(図2-4-4)

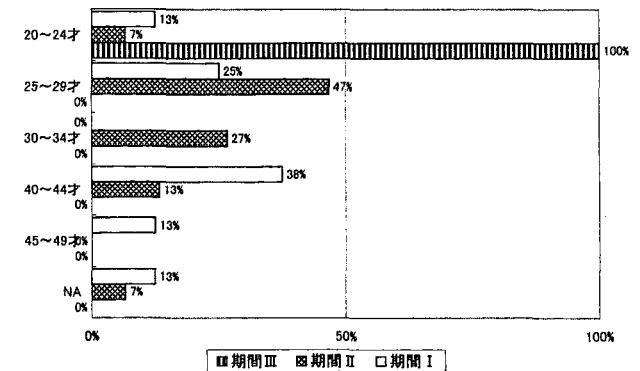


図2-4-4 4回目の退職年齢(期間別)
(n=24: Ⅰ期8, Ⅱ期15, Ⅲ期1)

5) 4回目の勤務年数

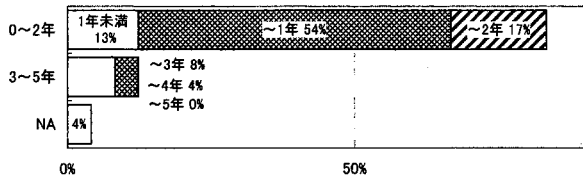


図 2-4-5 A 4 回目の勤務年数 (n=24)

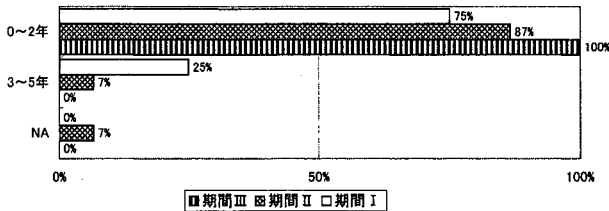


図 2-4-5 B 4 回目の勤務年数 (期間別)
(n=24: I 期 8, II 期 15, III 期 1)

4 回目の就職先を退職した24人の内83%である20人が2年以内に退職しており、3年以内には全員が退職している。契約社員やパートなど、期間の短い就業形態の増加が一因であろう。(図2-4-5 A/B)

6) 4回目の退職理由

III期の1人は「キャリア・アップ転職」をしている。「その他」には、「契約切れ」や「経営者交替による解雇」の5人が含まれている。(図2-4-6)

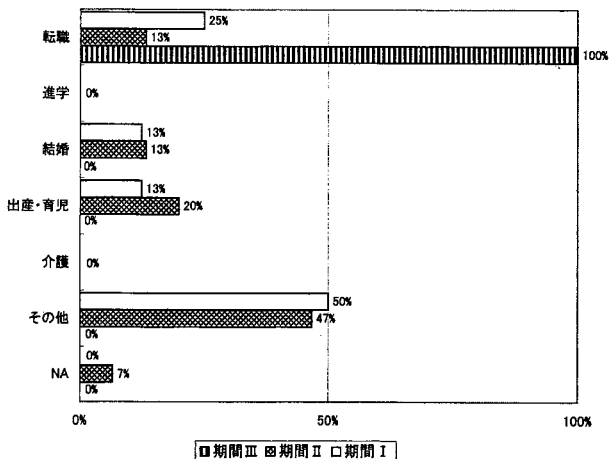


図 2-4-6 4 回目の退職理由 (期間別)
(n=24: I 期 8, II 期 15, III 期 1)

2-5. 5回目の就職状況

1) 5回目の就職年齢

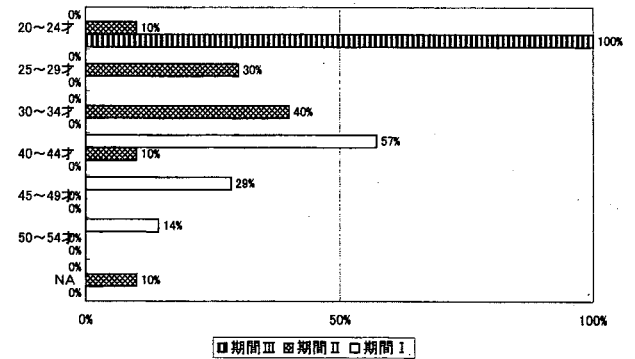


図 2-5-1 5 回目の就職年齢 (期間別)
(n=18: I 期 7, II 期 10, III 期 1)

5 回目の就職をした18人 (I 期 7, II 期 10, III 期 1) の年齢は図 2-5-1 の通りである。I 期は40代で6人、51才で1人が就職しており、II期は24才から33才までで8人、40才で1人が就職している。III期の1人は22才である。

2) 5回目の就職形態

「正社員」が激減し、「パート」が突出している。(I 期 5, II 期 2, III 期 1) II期の形態がI期より多様になっているのは、年齢が比較的若いからであろうか。(図2-5-2)

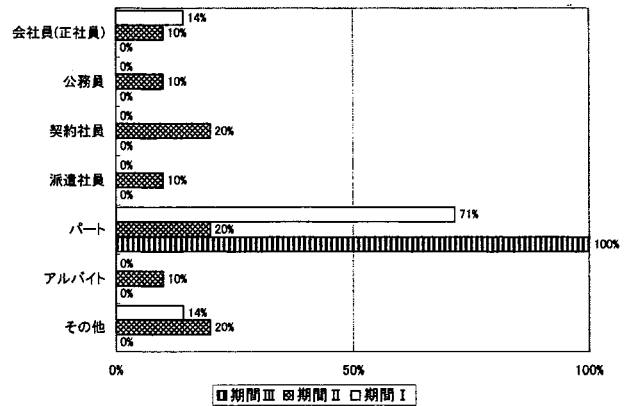


図 2-5-2 5 回目の就業形態 (期間別)
(n=18: I 期 7, II 期 10, III 期 1)

3) 5回目の職種

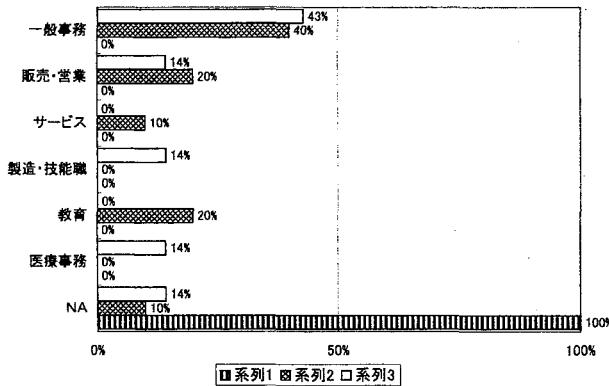


図2-5-3 4回目の職種 (期間別)
(n=18: I期7, II期10, III期1)

「一般事務」が漸減しながらも依然トップである。(I期3, II期4) II期「教育」の2人のうち、1人は「英会話塾の講師」であり、もう1人はカナダで「日本語教師」をしている。(図2-5-3)

4) 5回目の退職年齢

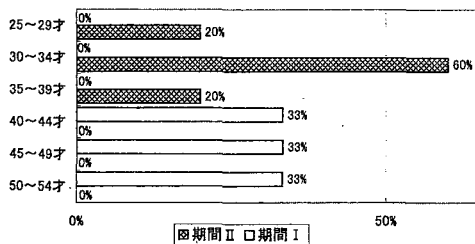


図2-5-4 4回目の退職年齢 (期間別)
(n=8: I期3, II期5)

III期の1人が継続中なので、5回目の退職は8人(I期3, II期5)となった。I期とII期の年齢が明確に分かれている。(図2-5-4)

5) 5回目の勤務年数

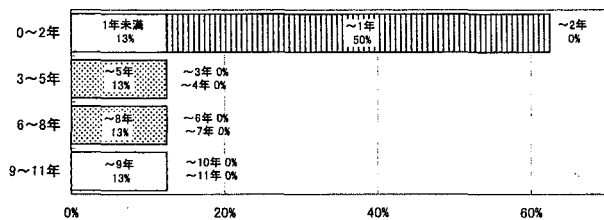


図2-5-5 A 5回目の勤務年数 (n=8)

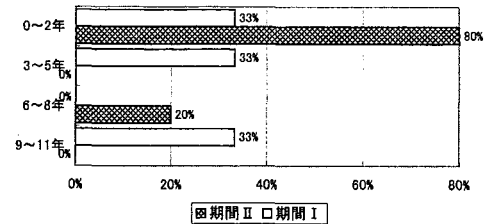


図2-5-5 B 5回目の勤務年数
(n=8: I期3, II期5)

8人のうち、2年以内に退職したのは5人で、「契約社員」「派遣社員」「パート」「アルバイト」であった。残りの3人は「正社員」と「公務員」で、勤続年数はそれぞれ5年、8年、9年とかなり長くなっている。(図2-5-5 A/B)

6) 5回目の退職理由

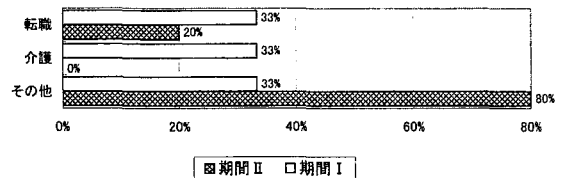


図2-5-6 5回目の職種 (期間別)
(n=8: I期3, II期5)

「転職」は2人、「介護」は1人で、その他は「契約切れ」3人、「仕事が合わない」「人間関係」が各1人であった。(図2-5-6)

III. 現在の仕事に対する姿勢

転職に関する質問の後で、現在仕事をしている卒業生192人を対象に、今の仕事に対する感想や考えを尋ねた。15項目について1~5までの段階を選んでもらった結果から、各項目の平均値を求めて、数値が大きい順に並べたところ、表4のようになった。

どの期間も概ね項目の順序が似通っていることが分かる。全ての期間に共通して「チームワークや助け合い」が1位となっているのは興味深い。

また、仕事に対する積極性や前向きな姿勢を示す項目が2位から5位まで上位をしめており、逆に、消極性やネガティブな気持を示す項目は、12位、13位、15位と下位になっている。期間を問わず、卒業生達が積極的に仕

表4 今の仕事に対する感想や考え (n=192)

順位	項目	全体	I期	II期	III期
1	仲間とのチームワークや助け合いが大切だ	4.58	4.64	4.60	4.41
2	同僚やお客様から評価されるとうれしい	4.50	4.45	4.50	4.50
3	仕事の中でいろいろな体験をすることは楽しい	4.20	4.36	4.22	4.08
4	自分は仕事を通して成長していると思う	4.00	3.94	4.04	4.04
5	自分が職場の中で必要とされている実感がある	3.91	4.12	3.84	3.75
6	少々嫌なことがあっても長く勤めたい	3.86	4.12	3.83	3.71
7	もっと高い給与をえられるところで仕事がしたい	3.54	3.59	3.51	3.54
8	今の仕事は自分にとってやりがいがある	3.52	3.65	3.56	3.46
9	自分で目標を立てて意欲的に仕事をしている	3.35	3.50	3.39	3.23
10	いつも社会とかかわりをもっていないと不安だ	3.27	3.79	3.23	3.02
11	自分はいつも主人公意識を持って仕事をしている	3.05	3.03	3.09	3.00
12	毎日与えられた仕事をこなすだけだ	2.89	3.32	2.81	2.73
13	生活のために仕方なしに仕事をしている	2.60	2.73	2.50	2.65
14	キャリア(仕事の経歴や能力)向上のためには生活の犠牲もいとわない	2.48	2.70	2.44	2.46
15	上司・同僚との人間関係がわずらわしい	2.26	2.06	2.30	2.31

事に取り組んでいることが分かる。しかし、だからといって、「生活を犠牲」にしてまでキャリア向上を図ろうという気持はあまりないようである。

IV. おわりに

卒業生のキャリア形成に関する第2回報告の結論としては、次のようなことを挙げることができる。

- ① 本学科の卒業生は就業意識が高く、就職率も極めて高い。卒業後進学し、未だ就職経験のない2人を除いて、回答者全員が就職経験を持っている。短期大学生のライフプランにおいて、就職が大きな意味を持つことが改めて確認されたといえる。
- ② 最初の就職時は殆ど「会社員(正社員)」であるが、転職が進むにつれてその比率が下がり、逆に「パート」や「契約社員」などが増えている。
- ③ 本学科卒業生の職種は、「一般事務」が圧倒的に多く、続く「販売・営業」や「サービス」を大きく引き離している。転職後もその傾向はあまり大きくは変わっていない。また、絶対数は多くはないが、英語の専門性を生かして「学校の教員」や「塾、英会話教室の講師」など教育面で活躍している人が予想以上にいた。このことは、現在の学生のキャリアプランの参考になるであろう。

④ 本学科の卒業生の多くは長く仕事を続けている。卒業後間がないとはいえ、III期卒業生の82%が仕事をしていることは、調査前の予想を超えていた。加えて、年齢層が40代から50代であるI期の卒業生が、75%も現役で働いていることは驚きであった。「皆頑張っているんだな」との感を強くした。II期の就業率が64%と比較的低いのは、年齢的に子育ての時期に当たるからであろう。一時的に仕事を辞めているだけで、また時期が来たら再就職をする人も出るのではないだろうか。

⑤ 本学科の卒業生の多くは3年以内に勤務先を退職している。退職の理由は様々ではあるが、「転職」が最も多く、回答者の半数が転職経験を持っている。次いで、「結婚」や「出産・育児」が理由として多く挙げられている。

⑥ 現在働いている卒業生は、卒業の時期を問わず、仕事に対して積極的に前向きな意識を持っている。

個人の価値観・職業観の多様化が顕在化し始めて久しい。自立性(自律性)が重視される現在、個々人には、職業意識を確立して、自己啓発や自助努力によって、広く社会的に通用する職業能力を習得することが求められる。

厳しい就職環境の中でキャリア形成の緒に就こうとしている、短期大学生の自己啓発や自助努力を、短期大学

はいかに支援していくことができるのであろうか。

意欲的にキャリア形成に取り組む卒業生達の実態を、折に触れて在学生達に伝えながら、個々人の能力開発を支援すべく、模索を続けていきたい。

参 考 文 献

- 1) 垣見益子・橋内幸子共著「英語系学科卒業生のキャリア形成に関する研究(1)－卒業生が短期大学に期待するもの－」『中国短期大学紀要 第32号』2001年6月
- 2) 『産能短期大学卒業生に関する、職業と仕事の経歴についての調査報告』産能短期大学能率科 1999年4月
- 3) 渡辺 峻著『人的資源の組織と管理』中央経済社 2000年10月
- 4) 平野 光俊著『キャリア・ドメイン』千倉書房 1999年6月